

論壇

地域からグローバル化

今週、静岡市で日本・スペインシンポジウムが開かれた。日本とスペインの政府関係者、学識経験者、財界人などが集まって、観光戦略や高齢化に関するテーマで議論が行われた。また、それと並行して静岡市内ではスペインに関するイベントなどが開かれた。

なぜスペイン、と思う人もいるかもしれないが、静岡とスペインの関係は400年以上にさかのぼるものである。慶長14年(1609年)、スペイン船が千葉県沖で遭難して座礁した。村人たちが救出の救出によって、乗組員の多くが

伊藤 元重 学芸院大教授(国際経済学)

救われた。その中にいたスペインのフィリピン総督は、大御所として駿府にいた徳川家康と面会ができたという。

こうした一連の対応へのお礼として、2年後にスペイン国王フェリペ3世からの答礼使がスペインからやってきて家康に面会した。そのときの贈り物のひとつが

スペイン・シンポ開催の意義

「洋時計」だ。国の重要文化財に指定され、久能山東照宮に収められている。

このように400年以上からの縁がある静岡とスペインであるが、こうした点を考慮しなくても、静岡がスペインのような特定の国とのイベントを開催することは意義の大きなことであると思う。グ

ローバル化とは、国と国の関係だけでなく、個人と個人の関係が重要であるのだ。

静岡という地域の将来の繁栄を考えると、グローバル化という視点を外すことはできない。より多くの人が交流し、文化の融合が進み、モノの輸出入が増え、

観光戦略立案の主役に

スペイン経済は、リーマン・ショックやその後のユーロ危機で、非常に厳しい状況にある。失業率は全人口で25%、若者のそれは50%という数字からも、経済の厳しさがよく分かる。しかし、こうした数字だけでスペインを判断してはいけない。昨年、首都

マドリードに行く機会があったが、街は活気に溢れ、プラダ美術館などの文化施設も素晴らしい。ガウディやピカソを生んだ国でもある。

そしてスペインで特筆すべきは、世界最大の観光大国であるということだ。昨年数字を調べたときには、フランスについて世界第2位だったが、専門家の方の話ではついにフランスを抜いたそうだ。日本にはいま2000万人弱の訪日外国人が来るが、スペインには年間7000万人前後の外国人が来るそうだ。

そのスペインの人が言っていたが、観光戦略の主役は地域である。国だけの観光戦略では、どこにいても同じようではつまらない。地域ごとに独自の観光戦略があるから、結果的にスペイン全体でも多様性のある魅力ある観光大国になるという。この点は、静岡の観光戦略を考える上でも参考になる。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。